

あけぼの

人のぬくもりや、温かさを感じられるつながりを

皆さんはこれまで、誰かと何気ない会話をしたり
思いを聞いてもらったりして気持ちが楽になったこ
とはありませんか。

コロナ禍の2年間は、友人や知り合いと直接顔を
合わせて話す機会がなくなったり、地域行事が中止
となり一つのイベントをみんなでやり遂げる達成感
を得る機会が減ったりしました。そのように「人」
を直接感じる事が少なくなったからこそ、今まで
当たり前のようにあった「人とのつながり」や「人
との関わり」がどれほど大切なものであったかに気
付いた人もいないのではないのでしょうか。

「居場所」という言葉を耳にすることがあります。
居場所とは、一般的な場所を指すのではなく、
「心を休めたり、安心していられたりする関係性」
そのものではないかと思います。そのような関係性
を生み出す人との関わりが少なくなり、困ったこと
を誰にも言えず、一人で抱え込んでしまうことが多
くなったと感じている人もいないかもしれません。

私たちは、以前のような「人とのつながり」を再
構築したり、新たな「人との関わり」を構築したり
するために何を大切にしていけばよいのでしょうか。

人との関わりの中で前を向くことができたり、さ

まざまなことに気付けたりするのは大人だけではあ
りません。子どもたちは学校という一つの社会の中
で、たくさんの人と出会うことを通して、知識だけ
でなく、ものの見方や考え方、感じ方も学んでいま
す。子どもたちは、その学びの中から「人と関わり
ながら生きていくことの楽しさ」を実感し、「未来
を切り拓く力」を身に付けていきます。

これらのことは、学校の中だけで感じたり、育ま
れたりするものではありません。家庭や地域、そし
てさまざまな人との関わりの中でも育まれていきま
す。下を向いて歩いていた子が、地域の人に優しく
声を掛けてもらって笑顔になり、自分のことを大切
に思ってくれる人の存在や、人とのつながりや温か
さを感じたとき、その笑顔はどんどん輝いていきま
す。

「人のぬくもりや、温か
さを感じられる社会」にし
ていくために、今回のあけ
ぼので紹介する子どもたち
の学びや考え、気づきを通
して、私たち大人も一緒に
考えてみませんか。



人権コラム

人と人とのつながりが 感じられる社会に

全国の児童相談所が対応した児童虐待相談件
数は、令和2年度、初めて20万件を超えまし
た。また警察庁によると、令和2年に児童虐待
で命を落とした子どもは61人にも上ります。

児童虐待は、家族間のストレス、経済的な問
題、育児への不安など、さまざまな要因が引き
金になることがあります。さらには、親自身も
悩みや不安を一人で抱え込んでしまい、誰にも
相談できずに孤立して困っていたり、精神的に
追い詰められていたりして、何らかの支援を必
要としている場合があります。こうしたこと
は、どこの家庭でも起こり得るもので、児童虐
待の防止は社会全体で解決すべき問題です。

その背景には、育児との両立を困難にしてい
る労働条件や労働環境をはじめ、都市化、核家
族化などに伴い、社会的孤立が強まることで、
これまでのような親族や地域などとのつながり
の中で支え合って行ってきた育児が難しくなっ
ていることが考えられます。

また厚生労働省は、新型コロナウイルス感染
症の拡大による生活環境の変化と児童虐待との
関連性についても注視していくとしています。

私たち一人一人がお互いのことを思い合い、
人と人とのつながりを紡いでいくことが、安心
して子育てできる社会を
つくり、虐待を防止し、
かけがえのない命を守る
ことにつながるのではな
いのでしょうか。



子どもが安心できる居場所づくり

「人を大切にしよう」という思い

学校が再開されたとき、ある学級では先生が児童たちに休業中にどんな思いで過ごしていたかを問い掛けました。

〈児童の声〉



- みんなどうしているかな
- みんなに会いたいな
- かかった子は大丈夫かな

また先生は、津市でも新型コロナウイルスに感染した子どもがいると知ったとき、どんなことを思ったかを聞きました。

〈児童の声〉

- 治ってから学校に行くとき、不安だろうな
- 感染した人を犯人みたいに捜している人がいるって報道があったけど、どうしてかな
- かかった人は、何も悪くないよな



先生は子どもたちの言葉とともに、その時の思いを学級通信に載せて発信しました。

～学級通信から～

新型コロナウイルスに感染してつらい思いをしている人たちを誹謗中傷したり、探ったりすることがどんなに愚かなことなのかを教えてくれたのは、子どもたちでした。子どもたちの心に芽生えた「人を大切にしよう」という小さな芽を、大切にし守り育ててくださっている保護者の皆さんに、心から感謝を申し上げたいと思います。この芽が枯れないように摘まれないように、そして強く優しく、大きく育つように、私たちも人権感覚を磨き、しっかり生きていきたいと思います。

その先生は日頃から、さまざまな教材を使ったり日常の中で起こった問題を丁寧に取り上げたりしながら、自分の気持ちだけでなく、他の人の思いを考える時間を大切にしているそうです。

学校、保護者、地域が共に「人を大切にしよう」という思いを持ちながら子どもと関わっていくことにより、ここに紹介したような温かい心が育まれていくのではないのでしょうか。

あらためてみんなの宝物を知ることができました

緊急事態宣言下の9月、学校では、児童の安全と学びを保障するために、家庭と学校とをインターネットでつないだオンライン学習を実施しました。触れ合うことや関わること、みんなで集まって何か一つのことに取り組むことが制限される日が続きました。ある学校では、「お互いのことを知り合い、繋がりを深めること」にこだわった学習をオンラインでできないかを考え、取り組みを進めました。その一環として、ある学級ではお互いの宝物を発表し合いました。



〈児童の声〉



ぼくが最近のオンライン学習で楽しかったのは「私の宝物」です。理由は、みんなの宝物を知ることができたからです。あらためて、みんなの宝物を知ることができて、みんなにも大事なものがあるんだなと思いました。同級生でも知らないことがあったので、また友達のことを知ることができる授業がしたいです。

また、この学級では緊急事態宣言の解除後、授業参観の日に「みんなに聞いてほしい、嬉しかったこと」を話す交流会を行い、お互いのことをもっと知る機会をつくりました。保護者からは「子どもたちがうれしそうに自分のことを伝え合う姿を見ることができて良かったです」という声が寄せられました。

市内でも新型コロナウイルス感染症の拡大が続き、子どもが罹患したり濃厚接触者となったりし、園・学校が休業になりました。そのような状況の下、「感染を広げないこと」「学びを止めないこと」を大切にしながら、園・学校を誰にとっても「安心できる居場所」にするために、さまざまな取り組みが行われました。

一人一人がお互いのことを思い合うことで...

ある学校では、「今、罹患して休んでいる子が安心して学校に来られるように、どのような学習が必要か」を職員全員で話し合い、全ての学年で取り組みを進めることにしました。高学年では学習資料「みんなが教えてくれたこと」を活用し、学級で考えました。

〈児童の声〉



感染した人がいると聞いたとき、「私もかかるかも…」と思って怖くなりました。だけど、今一番つらいのは、感染した人だから、早く元気になってほしいし、「みんな待っているよ！」と伝えたいです。



「みんなが教えてくれたこと」の中に、「一人一人がお互いのことを思い合うことで、ちゃんと安心できる居場所ができるんだ」と書いてありました。本当にその通りだと思います。今、学校を休んでいる子が安心してできるように手紙を書こうと思います。

休んでいた児童が登校したとき、クラスメートが「〇〇ちゃん、久しぶり！」と駆け寄り、今までと変わらない笑顔で会話する様子が見られました。保護者からも「心配していましたが、子どもが『学校が楽しかった！』と言って帰ってきたので、ほっとしました」という声が学校に届けられました。

また、ある学校では休んでいた児童が安心して登校できるように「自分たちに何ができるか」を全てのクラスで考えました。各クラスから出された考えを児童会がまとめ、「みんなでいっしょに笑顔でいよう！」という言葉が全児童が常に意識できるように、掲示物を作成して玄関口に掲示しました。



子どもの方がしっかり考えていることに気付かされました

新型コロナウイルス感染症の拡大により、「感染することだけでなく、周囲の偏見や誹謗中傷からも子どもや家族を守らなければ…」という思いになった人も少なくないのではないのでしょうか。

ある学校の児童が罹患したときに、その学校に自分の子どもを通わせている保護者は以下のような思いを持ちました。

〈保護者の声〉



うちの子は感染者でも接触者でもないけれど、習い事へ行ったら他の学校の子から心無い言葉を言われたり、嫌な思いをさせられたりしないかな。

その心配から子どもに「しばらく習い事はお休みしようか」と声を掛けました。

すると、子どもからは次のように返ってきました。

〈子どもの声〉



学校の授業で新型コロナウイルスのことを勉強したよ。自分は感染していないし、人にうつすこともない。誰も何も悪いことをしていないから、習い事には堂々と行くよ。

その答えを聞いた保護者は以下のように話していました。

〈保護者の声〉



子どもの方がしっかり考えていることに気付かされました。学校で感染予防のことだけでなく、感染症に罹患した人やその家族などの思いを考える授業に取り組んでもらっているから、子どもがこのような成長できたのだと思い、うれしかったです。



豊津小学校の取り組み ～子どもが安心できる学校・地域づくり～

今回の「シリーズ学校・園では今」は、コロナ禍で多くの行事が縮小や中止となり、人と人との関わる場面も減ってしまう中、さまざまな工夫をしながら人と人とのつながりを大切にしたい「子どもが安心できる学校・地域づくり」を進めてきた、豊津小学校の取り組みについて紹介します。

誰もが安心して暮らせる地域・園・学校をめざして

新型コロナウイルス感染症の拡大と収束が繰り返される中、罹患者や濃厚接触者への誹謗中傷が大きな社会問題となっています。以前から「人と人とのつながり、誰もが安心できる地域づくり」を進めてきた豊津小学校では、コロナ禍において地域と共に何かできることはないかと考えました。

そこで、小学校区内の自治会長や学校運営協議会長、幼稚園長、幼稚園・小学校のPTA会長とも話し合い、地域全体に連名で「緊急アピール」と題したチラシを配付しました。チラシの吹き出しには、「みんな心配しているよ。早く元気になってね」「感染した人のことを悪く言うのは、おかしい!」「元気になったら、またいっしょにあそぼう!」など、新型コロナウイルス感染症について授業で学んだ児童たちの声が載せられ、家庭用に配付されたチラシには児童が自分の家族に向けたメッセージを直接書き込みました。保護者からは「家族で話し合うきっかけになりました」といった声が学校に届けられました。

「つながり」を大切にさまざまな取り組み

豊津小学校では、通学団などの日常生活や運動会などの行事、教科の学習や人権学習などさまざまな場面で「つながり」を大切にしたい取り組みを重ね、誰もが安心して過ごせる学校づくりを進めています。

それは新型コロナウイルス感染症についての学習でも同じです。

ある学年の「緊急アピール」のチラシを使っの授業で、先生が「自分がコロナウイルスにかかったら?」と投げ掛けました。すると、児童たちからは以下のような自分を責める言葉や不安な思いがでてきました。



- 家族や友達に「ごめん」
- 迷惑を掛けることになる
- いじめられないかな…
- また一緒に遊べるかな…

さらに先生が「新型コロナウイルスにかかったら自分が悪いの?」と問い掛けると、「かかってしまうことは誰でもある」「かかった人が悪いわけじゃない」といった声が上がりました。

そこで先生が「不安な気持ちでいる友達に自分ならどんな言葉を掛ける?」と投げ掛けると、児童たちからは次のような言葉がでてきました。

- 学校で待っているよ
- 誰も悪くないよ
- 治ってよかったね
- 治ったらいつも通り遊ぼう



そのようなみんなの言葉を聞いた児童たちは「安心した」「心がほっとした」「涙が出そうになった」と感じたそうです。

このように、豊津小学校では「お互いの思いを伝え合い聴き合う学習」を重ねることで、誰もが安心できる学校づくりを進めています。

★ 取材者の感想 ★

校長先生の「コロナ禍だからこそ創造力を発揮し、人と人とのつながりを深める取り組みを大切にしていきたい」という言葉が印象に残りました。豊津小学校が保護者や地域と共に「人と人とのつながり」をつくろうと、一枚のチラシをきっかけにして家族で話し合ったり、クラスで思いを伝え合ったりしたように、私自身も自分の家族や職場、地域の中で、思いを伝え合い聴き合うことを大切にしていきたいと思いました。